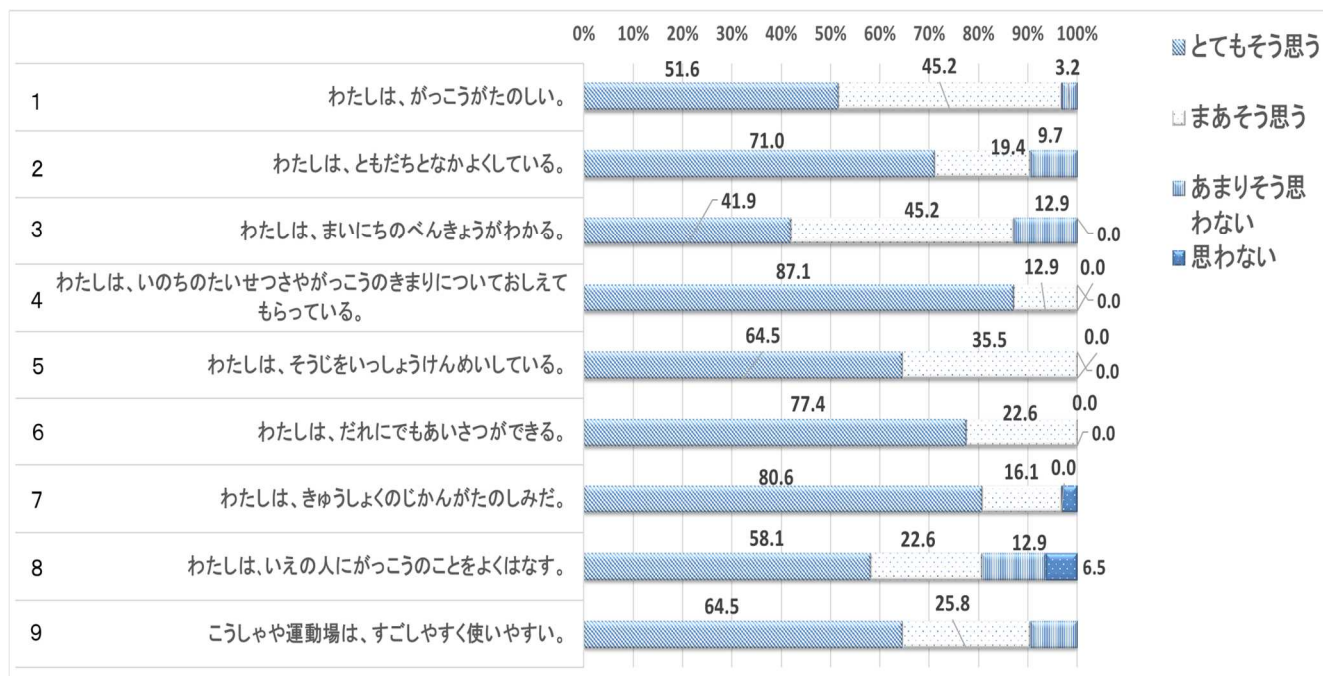
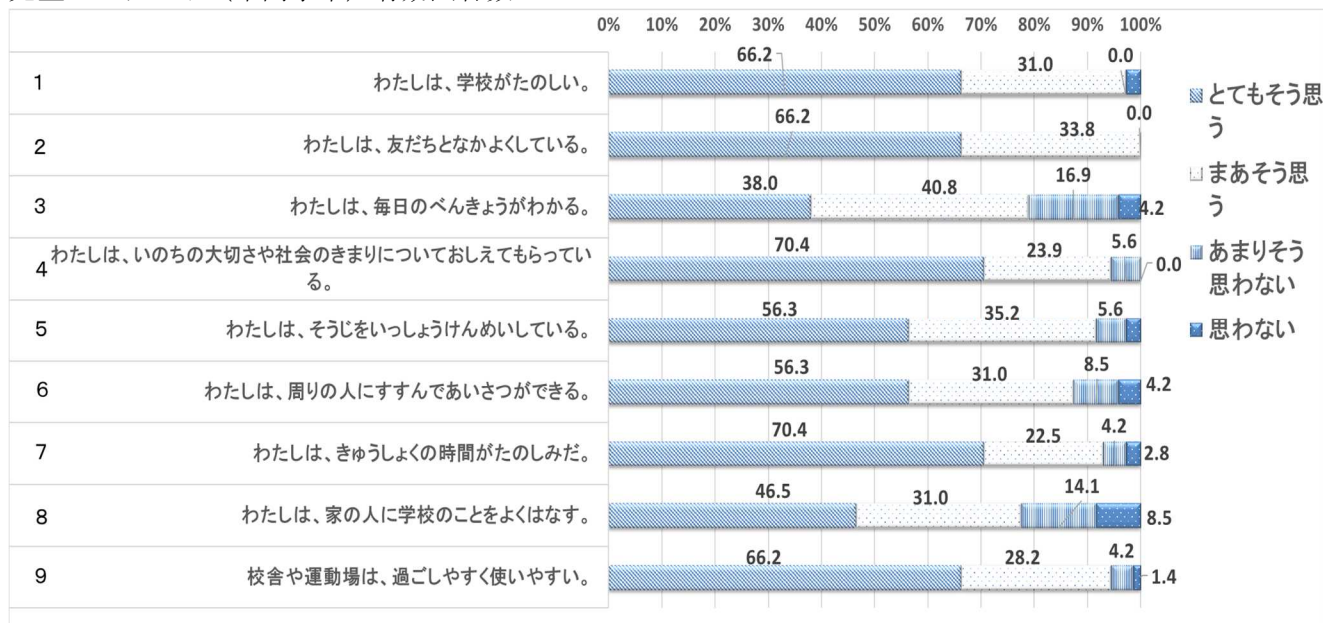


令和元年度 アンケート結果について

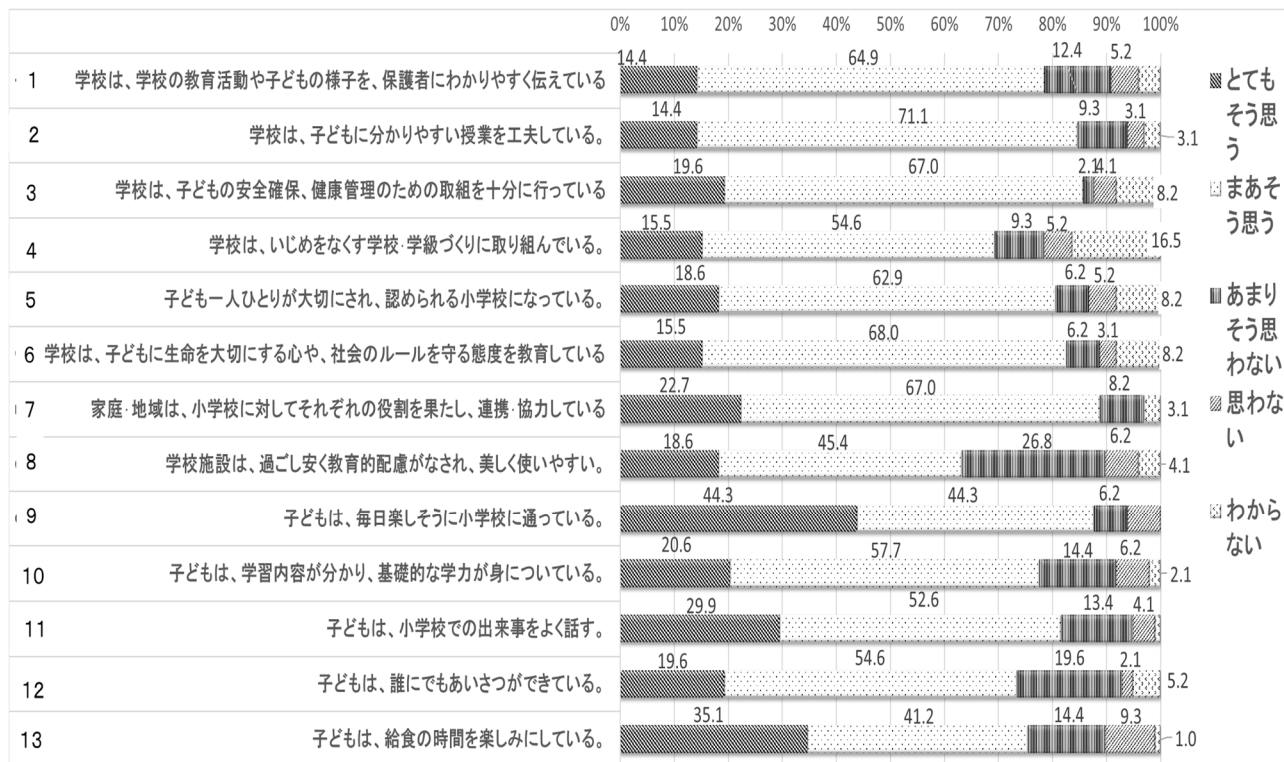
児童アンケート（低学年）有効回答数 31



児童アンケート（中高学年）有効回答数 71



保護者アンケート 有効回答数 98



考察

児童アンケートについて

「学校が楽しい」の設問に「とてもそう思う」「まあそう思う」と肯定的に回答した児童が、低学年96.8%、中高学年が97.2%であった。低学年・中高学年とも約97%前後の児童は学校が楽しいと感じている。

「友達と仲良くしている」の項目で、低学年90.4%、中高学年100%が肯定的に回答している。低学年が、中高学年と比較して、若干肯定的な回答率が低い。低学年は、成長過程で、自分の考えとまわりの人との思いや考えの違いを発端として、トラブルになるケースがあるが、中高学年では考え方や意見の違いを認めたり、調整したりする能力が身につけてきているのではないかと考える。

「毎日の勉強がわかる」という設問に、低学年87.1%、中高学年78.8%が肯定的に答えている。昨年度と比較して、低学年は0.6%上昇したが、中高学年は7.3%下降している。学年が上がるにつれ、学習内容が難しくなる。個々の児童を大切にしたい授業づくり、補充学習を充実させることが大切である。

「そうじを一生懸命している」の設問に低学年は100%、中高学年は91.5%肯定的に回答した。朝一番の掃除の活動を、児童は真面目に取り組み、心地よい一日のスタートをきっている。また、この姿勢が、校舎や施設などを大切に使うことにもつながっている。

挨拶ができるかの設問に、低学年は100%、中高学年は87.3%肯定的に回答している。高学年になると、気恥ずかしさも感じ、元気な挨拶がしにくくなりがちであるが、友達や教職員はもちろんのこと、見守り隊の方々に、進んで積極的に挨拶する習慣をつけたいところである。

保護者のアンケートについて

児童のアンケートで、「学校が楽しい」と答えた児童が多かったが、それと関連し、保護者のアンケートでも、「子どもは、毎日楽しそうに学校へ通っている。」の項目が88.6%、肯定的に回答されている。

「学校は、いじめをなくす学校・学級づくりに取り組んでいる。」の項目で70.1%肯定的な回答を受けた。いじめをなくす学校・学級づくりはこれからも継続して取り組む必要があるが、昨年度と比較すると約12%肯定的評価が増えた。毎年、11月の授業参観は、人権に関わる授業を実施しており、それらの取組も少しずつ理解を得て来たのではないかと考える。

質問項目の中で、一番肯定的回答が少なかったのが、学校施設の使いやすさに関する設問である。今年度、後半、南校舎のトイレの改修工事にあたり、階段にシートやベニヤ板を貼ったりして、あまりいい環境とはいえなかった。年度末までに工事は完了し、きれいな様式のトイレとなる。大切に使用していきたい。